

26年9月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 8月20日～ 26年9月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/9月	10月	11月
仕入 動向	国産材製材品	16.7	11.1	△ 11.1
	外材製材品	△ 11.1	△ 11.1	△ 16.7
	構造用集成材	12.5	0.0	0.0
消費 動向	国産材製材品	16.7	△ 11.1	△ 16.7
	外材製材品	0.0	△ 11.1	△ 22.2
	構造用集成材	18.8	0.0	△ 12.5
在庫 動向	国産材製材品	△ 5.6	△ 11.1	△ 22.2
	外材製材品	△ 11.1	△ 22.2	△ 27.8
	構造用集成材	△ 12.5	△ 18.8	△ 18.8

- ・国産材製材品の仕入れは、9月、10月の増加の後11月には減少に、外材は3ヶ月連続で減少、構造用集成材は9月の増加の後、10月、11月には横ばいに。
- ・国産材製材品の消費は、9月の増加の後10月、11月には減少に、外材は9月の横ばいの後10月、11月には減少に、構造用集成材は9月の増加後10月の横ばいを経て11月には減少に。
- ・在庫は、いずれの品目も3ヶ月連続して減少。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	26/9月	10月	11月
受注	22.2	5.6	△ 5.6
加工	27.8	0.0	△ 5.6
受注残	6.3	0.0	△ 12.5

- ・受注は9月、10月の増加が、11月にはやや減少。
- ・加工は、9月の増加の後10月の横ばいを経て11月には減少に。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・仕入れ、消費、在庫は一定の水準で推移。
- ・仕入れは、底値が見え始めている、為替に注意。消費では減速感はいなめない、過剰在庫にならないよう適正量をキープ。
- ・仕入れは安定、消費はやっと動きが回復しつつある。

(受注動向)

- ・長期旧盆休暇により当月加工量は若干増加。
- ・10月から不透明。
- ・やや増加、今後もこの状態が続いてほしい。